



一般社団法人 日本スイミングクラブ協会

新型コロナウイルス感染防止対策として発出された「緊急事態宣言」は、5月4日、対象期間を5月31日まで延長することが表明されました。大方の予想通りの結果とはいえ、一縷の希望をもって休業要請に応じてきた私たちの業界にとっても、更なる一カ月の休業は、辛い決定であることは言を俟ちません。また、同時に5月14日を目途に、「特定警戒都道府県」以外の34県は解除される見通しも立っており、スイミングクラブは営業再開の準備作業を開始し始めております。

そんな折、5月11日のテレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」で、休業要請に応じていた大手スポーツクラブの一施設が、営業再開に際して、プールは利用禁止としてロッカールームとマシンエリアのみオープンする事例を取り上げ、コメンテーターが感染防止の観点から慎重なクラブの判断として賛同の意を表しました。スイミングクラブの営業再開に疑問を持つ視聴者もおられる可能性があり、水道水・プール衛生管理の権威である関先生から塩素消毒の有効性について一文を頂きました。

ご参照のうえ、ご活用頂きますれば幸いです。

特別寄稿

◀ 休業要請対象クラブ プール再開に当たって ▶

令和2年5月19日

文責：(公社)日本水道協会 特別会員
スイミングプール水質管理懇話会
世話人 関 秀行

次頁「新型コロナウイルスと塩素消毒」を読んだプール関係者から、プール再開へ向けての留意事項についてコメントを求められましたので、全国のプール施設に共通する留意点をここに記します。

1. プール付帯施設の消毒

(1) 半生物のウイルスにも寿命があります。

ウイルス不活性化のメカニズムがどうであれ、湿度が50%以上になるとウイルスはその外観形状を残したままスパイク・タンパク質が変性し、不活性化（感染しなくなる）します。20分後には90%以上が俗にいう“死ぬ”のです。

プールで塩素消毒に用いている12%次亜塩素酸ナトリウム液は、この不活性化速度を極端に速くできる薬剤です。厚生労働省・自治体で定めているアルコール消毒では、“ピシヨピシヨ”に濡れている状態を1分間以上継続してようやく99%の不活性化ができ、それでも次亜塩素酸の1/150,000の不活性化力です。

(2) 12%次亜塩素酸ナトリウムを1,000倍希釈し、物体表面に噴霧・清拭。

12%次亜塩素酸ナトリウムを1,000倍に希釈すると、120mg/Lの次亜塩素酸水になります。ハンドスプレーでこれをロッカー内部、扉の内外面、手をつく通路壁面、手すり・イス・使用したマスク・タオルなどの表面を消毒します。

プールではかつて脚洗い場・腰洗い槽があり、50~100 mg/Lの水に浸かってからプール室に入りました。噴霧であれば、手指消毒にも支障はありません。

2. プール水の消毒

プール水の消毒は、以前から行っていた遊離残留塩素濃度0.4~1.0 mg/Lで管理してください。

以上

新型コロナウイルスと塩素消毒

株式会社 メルス技研
代表取締役 関 秀行

冠略 患生は、pH 緩衝弱酸性次亜塩素酸水「ジアのチカラ」の普及に全力を注いでおり、生産が間に合わない特需状態の真っ只中にいます。COVID-19 の空気感染も否定されたわけではなく、当方は 50 mg/L 次亜塩素酸水の超音波噴霧を数年前から勧めてきています。

別紙の新聞記事をご覧ください。2 紙の記事を併せ考えますと、トレーニングジムマシンなど手が触れる部分の次亜塩素水（プール水でももちろん可）による清拭、ロッカー、ドアノブなどの消毒も大事ですが、空気中ウイルスの不活性化も重要と考えています。

以前から、プール水中でのウイルスの感染はありえず、タオル・キャップなどの共用やスキンシップによる接触がプール施設におけるウイルス感染と説明してきました。拙著でも、具体的に解説しておりますが、COVID-19 はインフルエンザとたいして変わりませんので対処法も同じです。今回、朝のワイドショーでコメンテーターが賛同した、大手スポーツクラブが営業再開を行った際にプール施設を使用禁止としたことは、的外れな対応と言わざるを得ません。

厚労省や国・地方行政政府が誤った対策措置を次々と講じたため、今の事態になりました。ちなみに「アルコール消毒」の抗ウイルス力は、筆者算定で次亜塩素酸水の 1/150,000 と判明しました。クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の医療支援に出動した自衛隊 2,700 人に一人の感染者が出なかったのは、500 mg/L の次亜塩素酸水を活用したからです。

草々

産経抄（2020/5/2）

持病の潰瘍性大腸炎の悪化で、安倍晋三首相が第1次政権を手放したのは平成19年9月のことである。安倍首相は、その2年余り後に認可された新薬アサコールが画期的に効き、病は寛解（消失）状態となって復活を果たす。だが、アサコールは海外では15年以上前から使われていた。

▼「『(新型インフルエンザ薬として)日本で承認されているのだから』と私も言ったが、法令上できない」。安倍首相は国会で、新型コロナウイルス薬の有力候補である国産のアビガンの特例承認できない苦渋をあらわにした。一方で政府は、世界数十カ国へのアビガン供与を決め感謝されているのに。

▼ウイルス禍は融通の利かない立て付けの悪い法令と、縦割り行政の弊害を可視化した。ウイルス殺菌効果が高いとされ、人体に無害な次亜塩素酸水に対し、厚生労働省の担当局長は国会でそっけない答弁をした。「推奨してごいません」。多くの人は効果は薄いのだと受け取るだろう。

▼実は次亜塩素酸水は新型コロナの消毒用に中国、韓国、台湾などに輸出され、感染封じ込めに多大な貢献をしてきた。厚労省は効果を認めずとも全国の自治体や民間は既に、感染予防対策として取り入れている。

▼4月30日の自民党会議では、世耕弘成参院幹事長が手元に携帯用加湿器を置き、次亜塩素酸水を噴霧していた。聞けば、国会内の参院幹事長室や国対委員長室でも噴霧しているという。「いろんなデータを見ても明らかに有効だとのエビデンス（証拠）はある」（世耕氏）。

▼経済産業省は現在、次亜塩素酸水を含む3物資について、新型コロナに対する有効性を検証しており、今月半ばにも結果が出る。有効だと評価されれば、使用をためらう理由はもうあるまい。

（2020年5月2日 産経新聞より）

武漢の病院の空気中、エアロゾルからウイルス遺伝物質検出

新型コロナウイルスに感染した患者が多数入院していた中国・武漢市で、病院の空気中を漂う微粒子（エアロゾル）からウイルスの遺伝物質を検出したと、中国の研究チームが英科学誌ネイチャーで発表した。微粒子から感染するかどうかは不明という。

新型コロナウイルスは、患者のせきやくしゃみなどから他の人に感染すると考えられている。チームは2～3月、患者を収容する病院や公共エリアで、空気中に浮いているごく小さな水分などの微粒子を集め、ウイルスの遺伝物質があるかを調べた。

その結果、換気していない患者用トイレ、医療従事者が防護服を脱ぐ場所で、検出された。換気された病棟では、ほぼゼロだった。住宅やスーパーマーケットなど、病院外の公共エリアでは検出されなかったという。

浜田篤郎・東京医科大病院渡航者医療センター教授の話「患者の気道吸引などを実施する場所で微粒子が発生すると考えられていたが、それとは別の場所で検出された。院内感染対策を考え直す必要がある」

（2020年5月3日 読売新聞より）

《お問い合わせ先》 〒167-0031 東京都杉並区本天沼1-25-12-104

TEL:03-3301-1339 FAX:03-3399-5210

株式会社メルス技研 代表取締役 関 秀行